

SEAラウンドトーク

アーティストは今、ソーシャリー・エンゲイジド・アートをいかに捉えているのか？
一線で活躍するアーティストによるトーク&ディスカッション・シリーズ

Vol.5 SEAは可能か？

ゲスト | 藤井光

2018年1月11日[木] 18:30-20:30

今回のトークは、映像作品を中心に、人々の記憶の危うさや歴史の再解釈を試みる作品で知られる藤井光さんをお招きします。1903年に内国勸業博覧会で行われた「人間の展示」等に焦点を当てた映像インスタレーション『日本人を演じる』や、東京大空襲の犠牲者追悼記念館の計画が政治的理由により実現しなかったことをテーマにした『爆撃の記録』、韓国の学生に戦時中の日本の軍隊や児童への教育の様子を演じることを依頼した『帝国の教育制度』等について語って頂きます。

藤井さんの作品は映し出される人々と一定の距離を保ちながら独自の美的スタイルを生み出すことでも知られています。一方で、対象とする場所は政治化した場が多く、見る者に戸惑や居心地の悪さを感じさせ、自分たちを取り巻く社会や自らの立ち位置を再考することを促します。

今回のトークでは参加者を募り、テーマに関する議論やワークショップを通して作品化していく手法や考え方、また、政治とアートとの関係性等を具体的に伺いSEAの可能性を探ります。



プロフィール

藤井光 Hikaru Fujii

1976年東京都生まれ。美術家、映像作家。映像メディアを中心にアーカイブ資料などを取り上げ、人々の記憶や歴史の歪みを解きほぐすように関係性を再解釈した作品で知られる。作品形態は映像、ワークショップの実施、ドキュメンタリー映画の制作、演劇/映画作品の演出とテキストの執筆など。パリ第8大学美学・芸術第三期博士課程DEA卒業。近年では、『爆撃の記録』(東京都現代美術館『MOTアニュアル 2016 キセイノセイキ』展)、『帝国の教育制度』(森美術館『六本木クロッシング2016』展)を発表。監督作品にドキュメンタリー『プロジェクト FUKUSHIMA!』(プロジェクトFUKUSHIMA! オフィシャル映像記録実行委員会、2012年)、『ASAHIZA人間は、どこへ行く』(ASAHIZA製作委員会、2013年)、日産アートアワード2017でグランプリとなった『日本人を演じる』などがある。

お申込み&お問合せ

www.art-society.com

ウェブサイト上に公開する申込フォームよりお申し込みください。

定員 | 20名 (先着順)

料金 | 500円 (コーヒー/資料代込)

※ いただいた個人情報は、適切に責任を持って管理いたします。

主催 | ART & SOCIETY RESEARCH CENTER

NPO法人アート&ソサイエティ研究センター
110-0005 東京都台東区上野 3-13-9 原田ビル 201

会場

TKP上野御徒町
ビジネスセンター9階
カンファレンスルーム9A

住所 |
千代田区外神田 5-3-3
岩田ビルディング 9階

最寄駅 |
東京メトロ銀座線
末広町駅 2番出口 徒歩 3分
東京メトロ銀座線
上野広小路駅 A1出口 徒歩 4分
都営大江戸線
上野御徒町駅 A1出口 徒歩 4分
東京メトロ千代田線
湯島駅 6番出口 徒歩 4分
JR 山手線
御徒町駅 南口 徒歩 5分

